

小児・AYA世代のがん (Cancer in childhood, adolescents and young adults)

■ 罹患の状況 (2024年5月13日現在の統計値による)

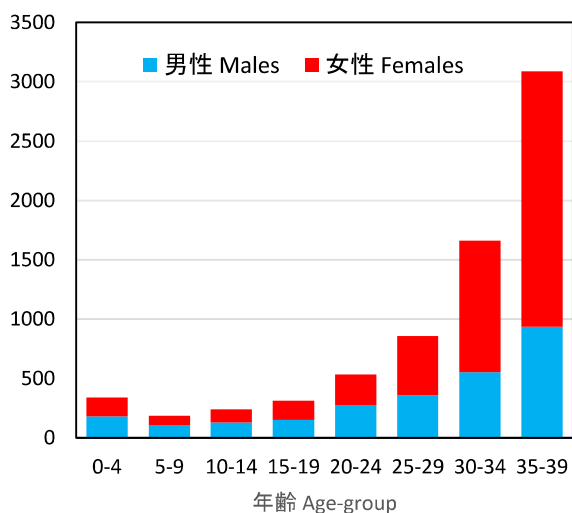
2016年から2020年の5年間にがんと診断された人数(男女計)は、0-14歳で770人(性別不詳1名含む)、15-19歳で315人、20歳代で1,393人、30歳代で4,750人であった。小児がん(0-14歳)の罹患率(粗罹患率)は男女計で15.4(人口10万人あたり)であった。同様にAYA世代のがん罹患率は15-19歳で16.9、20歳代で33.4、30歳代で101.3(人口10万人あたり)であった。図に示す通り、罹患数(罹患率)は25歳を過ぎると飛躍的に上昇していた。

小児期における罹患率に性差はほとんどないが、女性の罹患率は15歳以上で男性より高くなり、15-39歳のがん症例の64%を占め、年齢が上がるに従って性差は増加している。

罹患数(2016-2020年)

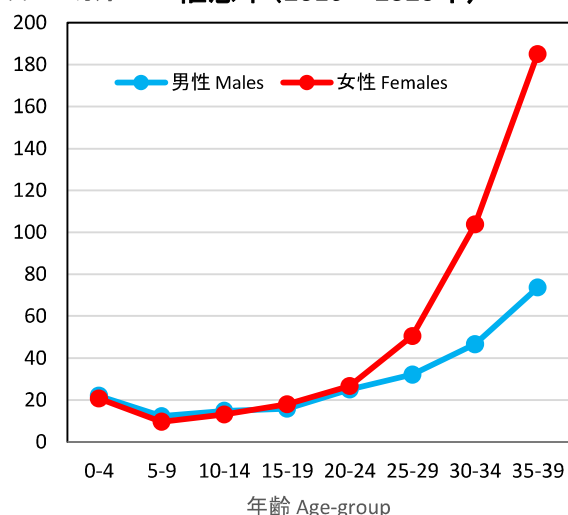
年齢階層 Age group	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
男性 Males	180	107	131	153	273	360	554	936
女性 Females	160	80	111	162	264	496	1,108	2,152

罹患数(2016-2020年)



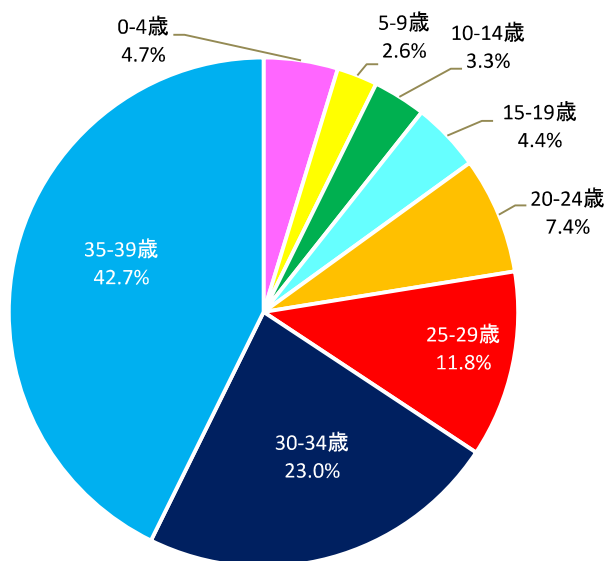
人口10万対

罹患率(2016-2020年)



年齢の割合

30-39歳で発症している人が40歳未満のがん罹患者の約66%、AYA世代(15-39歳)のがん罹患者の約74%を占めていた。



■ がんの種類について

小児期からAYA世代のがんを「国際小児がん分類」を用いて分類すると、好発するがんの種類が年齢により大きく変わる。特に20歳代では、女性乳がん、子宮頸がんが増えてその変化が大きい。

年齢階級	1位	2位	3位
0-14歳	白血病(39%)	脳腫瘍(13%)	リンパ腫(12%)
15-19歳	白血病(23%)	胚細胞腫瘍・性腺腫瘍(16%)	リンパ腫(15%)
20-29歳	胚細胞腫瘍・性腺腫瘍(16%)	甲状腺がん(15%)	白血病(14%)
30-39歳	女性乳がん(22%)	子宮頸がん(12%)	大腸がん(9%)

小児・AYA世代のがん種の内訳の変化

